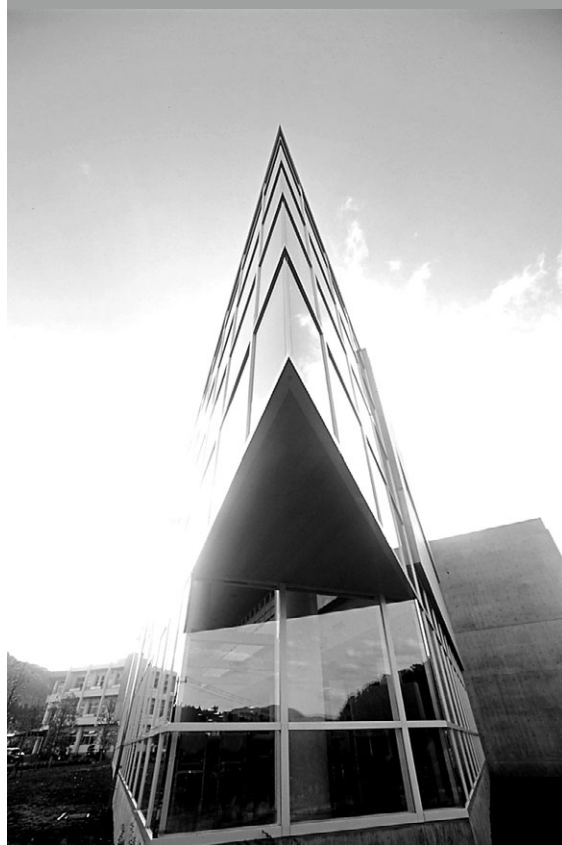


JIN-AI UNIVERSITY

2018 SYLLABUS

平成30年度
大 学 院
シラバス



目 次

<基礎科目群>

心理学研究法特論	大森 慈子	1
臨床心理学研究法特論	大山 泰宏	3
臨床心理学特論Ⅰ	森 俊之	4
臨床心理学特論Ⅱ	西村 則昭	5
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	西村 則昭	7
臨床心理面接特論Ⅱ	渡辺 克徳・三脇 康生	9
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	森 俊之・渡辺 克徳	11
臨床心理査定演習Ⅱ	吉水ちひろ	13
臨床心理基礎実習Ⅰ	片畑真由美・吉水ちひろ	15
臨床心理基礎実習Ⅱ	稲木康一郎・渡辺 克徳	16
臨床心理実習	森 俊之・水上喜美子	17

<基幹科目群>

心身医学特論	岸本 寛史	19
発達心理学特論	竹村 明子	21
教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	後藤 智子	22
社会病理学特論	三脇 康生・松嶋 健	23
家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	水上喜美子	24
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	三脇 康生	26
障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	水田 敏郎	27
産業心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	山本 雅代	28
心理教育学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	杉島 一郎	30

<応用科目群>

グループアプローチ特論	鎌田 道彦	31
心理療法特論	千野美和子	32
老年心理学特論	水上喜美子	34
産業心理調査解析	杉島 一郎	35
臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）	森・三脇・水上・片畑・吉水・渡辺・稲木	37
臨床心理実習Ⅱ（スーパービジョンプログラムを含む）	森 俊之	40

<研究指導科目>

臨床心理研究演習	片畑真由美・竹村 明子・森 俊之	41
----------	------------------	----

心理学研究法特論			担当教員	大森 慈子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-RM-2111	2 単位	1 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学に関する研究能力の基礎を培う					

授 業 の 内 容
心理学研究法への理解を深めるためには、心とは何か、心理学とは何か、そもそも研究とは何かについて考える必要がある。これらをふまえた上で、授業では、問題意識の芽生えから実践までにいたる心理学研究の方法論について、その理論と具体的手法を解——説する。観察法、実験法、検査法、調査法といった代表的な研究法のほかに、事例的な研究法も含め、それぞれの特徴と限界を知り、自らの研究をすすめる足掛かりとする。
授 業 の 達 成 目 標
心理学研究法の内容と特徴について理解する。 自らのテーマに対する研究能力を養う。
授 業 の 計 画
第1回：心理学における研究法的重要性(1) 第2回：心理学における研究法的重要性(2) 第3回：心理学における研究法的重要性(3) 第4回：いろいろな研究法具体例と特徴(1) 第5回：いろいろな研究法具体例と特徴(2) 第6回：いろいろな研究法具体例と特徴(3) 第7回：いろいろな研究法具体例と特徴(4) 第8回：研究テーマと研究計画の関係(1) 第9回：研究テーマと研究計画の関係(2) 第10回：研究テーマと研究計画の関係(3) 第11回：研究テーマと研究計画の関係(4) 第12回：研究報告のしかたと問題点(1) 第13回：研究報告のしかたと問題点(2) 第14回：研究報告のしかたと問題点(3) 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、各回でとりあげられる内容について、自身の研究にあてはめて考えをまとめ、授業に臨んでください。また、授業で学んだことを、自分の研究テーマと計画に取り込み、再構築するようにしてください。
成 績 評 価 方 法
レポート50(50%)、平常点(50%) 平常点は、授業への参加状況や受講態度などを総合して判断します。
成 績 評 価 基 準
心理学研究法の内容と特徴について理解できているか。 自らのテーマに対する研究能力が備わっているか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
テキストは使用しない。 参考図書は、適宜紹介する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理学研究法特論			担当教員	大山 泰宏	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-RM-2121	2 単位	1・2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学に関する研究能力の基礎を培う					

授 業 の 内 容
事例研究をはじめとして、臨床心理学の研究法は複雑で多様である。そこにおける独特の実証の方法、資料収集の方法、論文執筆の方法等について、演習を交えた講義をおこなう。
授 業 の 達 成 目 標
臨床心理学の論文の仮説設定や構成ができるようになる。
授 業 の 計 画
第1回：各自のこれまでの研究を紹介する 第2回：臨床心理学における研究とは 第3回：研究における倫理 第4回：資料・文献検索の方法 第5回：疑問からリサーチ・クエスチョンを生成する 第6回：先行研究をもとに仮説を深める（1） 第7回：先行研究をもとに仮説を深める（2） 第8回：実証の方法を検討する（1） 第9回：実証の方法を検討する（2） 第10回：事例研究法のダイナミズム（1） 第11回：事例研究法のダイナミズム（2） 第12回：問題部分を書いてみる 第13回：臨床心理学の研究と臨床実践 第14回：データ解釈の批判的思考 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
講義で学んだ知識を各自のこれまでの研究に照らし合わせてみること。 また、講義で学んだ知識をもとに各自の修士論文を検討してみること。
成 績 評 価 方 法
レポート（80%） 平常点（20%） ※平常点は、授業中の発言内容などから評価する。
成 績 評 価 基 準
臨床心理学における論文の仮説設定や構成の仕方を理解し、問題部分と方法部分のしっかりした論文を執筆できるか。
テキスト、参考図書
森岡正芳・大山泰宏（編）（2014）臨床心理職のための「研究論文の教室」：研究論文の読み方・書き方ガイド（『臨床心理学』増刊第6号）金剛出版。
その他(受講上の注意)
各自で自分のこれまでの研究（論文等）について、事前に振り返っておいてください。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理学特論Ⅰ			担当教員	森 俊之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2111	2 単位	1 年前期	講義	必修	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容
臨床心理学の基礎科目として、臨床心理学とはどのような学問であるのか、臨床心理的支援とはどのようなものなのかについて、これまでの歴史や現状を理解し、今後について考察する。
授 業 の 達 成 目 標
- 臨床心理学の学問的基盤について理解する。 - 臨床心理学的支援の現状と課題（法制度、要支援者、支援法、倫理など）について理解する。
授 業 の 計 画
第1回：臨床心理学とは 第2回：臨床心理学の歴史 第3回：臨床心理学と資格制度 第4回：臨床心理学の対象論 第5回：臨床心理学的援助論① 第6回：臨床心理学的援助論② 第7回：臨床心理学的援助論③ 第8回：臨床心理学的援助論④ 第9回：臨床心理学的援助論⑤ 第10回：医療領域における専門性と課題 第11回：教育領域における専門性と課題 第12回：福祉領域における専門性と課題 第13回：司法領域における専門性と課題 第14回：産業領域における専門性と課題 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
臨床心理学に関連する図書を読む。本授業と他の授業で学んだ内容を常に結びつけて考察する。新聞等も参考に日常的に臨床心理学的な問題を意識する。
成 績 評 価 方 法
レポート課題（80%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況、討論内容により総合的に評価する。）
成 績 評 価 基 準
- 臨床心理学の学問的基盤について説明できるか。 - 臨床心理学的支援の現状と課題（法制度、要支援者、支援法、倫理など）について説明できるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
参考図書 臨床心理学全書Ⅰ 臨床心理学原論 大塚義孝（編） 誠信書房2004 そのほか、授業中に適宜、紹介する
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
自発的に発言し、主体的な講義への参加を心がけてほしい
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理学特論Ⅱ			担当教員	西村 則昭	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2112	2 単位	1 年後期	講義	必修	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容
臨床心理士の拠って立つ学問としての臨床心理学とはどのような学問であるのか、またあるべきなのか、その全体像を考える。
授 業 の 達 成 目 標
- 臨床心理士の仕事とは、基本的人権を尊重し、専門家としての知識と技能を人々の福祉の増進のために用いるように努める仕事であることを理解する。 - 臨床心理学とは、近代的主体を範（モデル）として、有効な心理的援助のあり方を科学的＝実証的に探求する学問でなくてはならないという昨今主流となりつつある考え方を踏まえつつ、より広い視野に立って人間の心を捉えることができる。 - 多様なクライアントのニーズに対応すべき、これからの心理臨床の専門家が依拠すべき臨床心理学とは、どのようなものであるべきか、その全体像を持つことができ、実際のさまざまな領域の臨床心理士のさまざまな活動を、その全体像の中に位置づけることができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション（心理臨床における科学的実証と哲学精神） 第2回：近代的主体とは何か 第3回：本来的自己と非本来的自己 第4回：神経発達障害児・者の理解と地域援助を考える① 第5回：神経発達障害児・者の理解と地域援助を考える② 第6回：不登校児童・生徒・学生の理解と地域援助を考える① 第7回：不登校児童・生徒・学生の理解と地域援助を考える② 第8回：摂食障害者の理解と地域援助（あるいは自助グループ活動）を考える① 第9回：摂食障害者の理解と地域援助（あるいは自助グループ活動）を考える② 第10回：精神病患者の理解と地域援助を考える① 第11回：精神病患者の理解と地域援助を考える② 第12回：性別の問題 第13回：心理臨床と宗教 第14回：臨床心理士の倫理 第15回：まとめ（心理臨床における科学的実証と哲学精神）
授 業 外 の 学 習 方 法
授業でディスカッションし学んだことを、内部および外部実習の経験と重ね合わせ、深く考えるようにしてください。
成 績 評 価 方 法
期末レポート（50％）、小レポート（30％）、平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します）
成 績 評 価 基 準
- 臨床心理士の仕事は、基本的人権を尊重し、専門家としての知識と技能を人々の福祉の増進のために用いるよう努める仕事であることが理解できているか。 - 近代的主体を範（モデル）とする、人間の心に対する科学的＝実証的アプローチの意義と限界を認識し、より広い視野で人間の心を捉えることができるか。 - 臨床心理士のさまざまな活動を理解し、臨床心理学の全体像を持つことができ、内部および外部実習の経験をその全体像の中に位置づけることができるか。

テキスト、参考図書
こちらで準備する。また適宜伝える。
その他(受講上の注意)
質問はメールでも受け付けます (nisimura@jindai.ac.jp)。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)			担当教員	西村 則昭	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2121	2 単位	1 年前期	講義	必修	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容
臨床心理面接について、特に心理療法とは何かを学ぶ。
授 業 の 達 成 目 標
・クライアントの人格、基本的人権を尊重し、その心に寄り添いながら、専門的知見に立って、クライアントを正確に見立て、的確に対応していくことができる。 ・心理臨床センターで実際に事例を担当し、心理療法演習Ⅰ・Ⅱにおいて発表、討論をおこなうための、特に理論面での土台を作る。 ・DSMなどの学派を超えた共通用語に習熟し、見立てをおこなったり、臨床場面におけるさまざまな現象を考えるために、それらを用いることができ、その上で精神分析などの特定の学派の考え方をを用いて、事例理解を深めることができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション（心理療法とは何か） 第2回：インテーク面接概説 第3回：神経発達障害の見立て（DSM-5を読む） 第4回：神経発達障害児・者の心理療法過程（事例研究を読む） 第5回：神経症の見立て（神経症とは何かを精神分析の観点から考える） 第6回：神経症児・者の心理療法過程（事例研究を読む） 第7回：パーソナリティ障害の見立て（DSM-5を読む） 第8回：パーソナリティ障害の心理療法過程（事例研究を読む） 第9回：解離性障害の見立て（DSM-5を読む） 第10回：解離性障害の心理療法過程（事例研究を読む） 第11回：精神病の見立て（DSM-5を読む） 第12回：精神病の心理療法過程（事例研究を読む） 第13回：面接過程における問題（転移など） 第14回：危機介入（自殺企図の場合など） 第15回：まとめ（心理療法とは何か）
授 業 外 の 学 習 方 法
DSM-5（英語）を学んでいくので、授業で指名されたとき翻訳できるようにしておいて下さい。またこの授業で取り上げられた用語や概念について、もし不明な点があるなら担当教員に質問したり、自ら調べたりして、確実に自分のものとし、心理療法演習における討論をきちんと理解し、参加もできるようにして下さい。
成 績 評 価 方 法
期末レポート（50%）、小レポート（30%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します）
成 績 評 価 基 準
・クライアントの人格、基本的人権を尊重し、その心に寄り添う姿勢ができているか。 ・DSM-5などの共通言語に習熟しているか。 ・その上で、精神分析などの特定の学派の考え方をを用いて、事例理解を深めることができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
APA, DSM-5, American Psychiatric Publishing, 2013. その他、授業の中で適宜紹介する。

その他(受講上の注意)
質問はメールでも受け付けます(nisimura@jindai.ac.jp)。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理面接特論Ⅱ			担当教員	渡辺 克徳、三脇 康生	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2122	2 単位	1 年後期	講義	必修	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容	
本授業では臨床心理面接がどのように行われるか、その基本的な進め方や構造について、前期とは異なる視点(芸術療法、認知行動療法など)から、実践的に学ぶ。実際のケースや、すでに文献に紹介されている事例などを取扱い、事例からできるだけ多くのことを学ぶことを試みながら、臨床心理士としてのエッセンスを身につけていく。	
授 業 の 達 成 目 標	
・ 複数の臨床心理面接の視点を理解する。 ・ 芸術・表現療法の視点から、心理的援助に関する理解を深める。 ・ 認知行動療法の視点から、心理的援助に関する理解を深める。	
授 業 の 計 画	
第1回：認知行動療法とは (担当 渡辺) 第2回：認知行動療法のプロセス (担当 渡辺) 第3回：認知行動療法の基本技法 (担当 渡辺) 第4回：認知行動療法の介入手続き (担当 渡辺) 第5回：応用行動分析 (担当 渡辺) 第6回：エクスポージャー法 (担当 渡辺) 第7回：認知療法 (担当 渡辺) 第8回：ブリーフセラピー① (担当 渡辺) 第9回：ブリーフセラピー② (担当 渡辺) 第10回：まとめ (担当 渡辺) 第11回：芸術療法概論 (担当 三脇) 第12回：ナタリーロジャースの方法論 (担当 三脇) 第13回：サイコドラマ (担当 三脇) 第14回：GIM (担当 三脇) 第15回：震災とアートセラピー (担当 三脇)	
授 業 外 の 学 習 方 法	
自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向けることを心がける。	
成 績 評 価 方 法	
授業内レポート(40%)、平常点(60%) (平常点は、授業への参加状況、討論内容など総合的に評価する。)	
成 績 評 価 基 準	
・ 複数の臨床心理面接の視点を比較的に説明できる。 ・ 芸術・表現療法の視点から、心理的援助について考察し、説明できるか。 ・ 認知行動療法の視点から、心理的援助について考察し、説明できるか。	
テ キ ス ト 、 参 考 図 書	
適宜紹介	
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)	
第5回終了時にレポート1を提出する	

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)			担当教員	森 俊之、渡辺 克徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2131	2 単位	1 年前期	演習	必修	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容
臨床心理査定に関する基本的な知識について学ぶとともに、代表的な知能検査や発達検査、神経心理学検査、人格検査の理論と実践について学ぶ。
授 業 の 達 成 目 標
- 臨床心理査定の背景となる基礎理論について理解する。 - 代表的な発達・知能検査、神経心理学検査、人格検査について理解し、実践できる。
授 業 の 計 画
第1回：臨床心理査定の基礎理解①（臨床査定の歴史と理論的モデル）【担当：森】 第2回：臨床心理査定の基礎理解②（臨床心理査定の基本姿勢と倫理）【担当：森】 第3回：知能検査の理解①（ビネー式知能検査）【担当：森】 第4回：知能検査の理解②（ビネー式知能検査）【担当：森】 第5回：知能検査の理解③（ウェクスラ―式知能検査）【担当：森】 第6回：知能検査の理解④（ウェクスラ―式知能検査）【担当：森】 第7回：神経心理学検査の理解①（注意・記憶に関する検査）【担当：森】 第8回：神経心理学検査の理解②（注意・記憶に関する検査）【担当：森】 第9回：発達検査の理解①（遠城寺式乳幼児分析的発達検査）【担当：渡辺】 第10回：発達検査の理解②（新版K式発達検査）【担当：渡辺】 第11回：人格検査の理解①（抑うつ・不安に関する検査）【担当：渡辺】 第12回：人格検査の理解②（抑うつ・不安に関する検査）【担当：渡辺】 第13回：人格検査の理解③（MMPI）【担当：渡辺】 第14回：人格検査の理解④（MMPI）【担当：渡辺】 第15回：人格検査の理解⑤（投映法の基礎）【担当：渡辺】 ※第1回～第8回は森が、第9回から第15回は渡辺が担当する。
授 業 外 の 学 習 方 法
その授業で扱うテーマや心理検査について、授業前に各自で、参考書や検査マニュアル等を精読しておくこと。学んだ心理検査について、自分なりに分析をしたり、お互いにロールプレイをするなどして実践活動に応用できるように努力すること。
成 績 評 価 方 法
授業への受講態度および授業内での発表内容（40%）、心理検査を実践・分析して作成したレポート等（60%）によって総合的に評価する。
成 績 評 価 基 準
- 臨床心理査定の背景となる基礎理論について説明できるか。 - 授業で学んだ検査について理解し、実践できるか。
テキスト、参考図書
岡堂哲雄 編「臨床心理学全書 臨床心理査定学」誠信書房 2004年 下仲順子 編「臨床心理学全書 臨床心理査定技法（1）」誠信書房 2004年 皆藤 章 編「臨床心理学全書 臨床心理査定技法（2）」誠信書房 2004年 そのほか、随時、紹介する。
その他(受講上の注意)
各種の心理検査について、授業外での積極的な演習を期待するが、検査用紙・器具等の取り扱いには注意を払うとともに、被検査者のデータ管理や情報の守秘などについて厳重に注意すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理査定演習Ⅱ			担当教員	吉水　ちひろ	
講義コード	単　　位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2132	2 単位	1 年後期	演習	必修	
<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容
臨床現場で用いられる代表的な投射法検査について学び、中でも包括システムによるロールシャッハテストの実施法と解釈法の習得を目指す。さらに、『臨床心理査定演習Ⅰ』で学んだ知能テストやパーソナリティ・テストなどと合わせて、臨床場面で実施されるパーソナリティ・アセスメントの実践について理解を深める。
授 業 の 達 成 目 標
①演習で取り上げた各種のテストについて、その理論や適用、実施法について理解し説明できること。 また、代表的な検査法については試行して、実践で使えるようになること。 ②ロールシャッハテストについては、施行手続きから、スコアリング、解釈まで理解し、実施できること。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション：投射法検査の概説 第2回：投射法検査の演習 第3回：ロールシャッハテストの概説 第4回：実施法解説 第5回：コーディング解説 第6回：コーディング演習 第7回：ロールプレイによる施行演習 第8回：構造一覧表解説 第9回：構造一覧表作成演習 第10回：解釈の基礎（1） 第11回：解釈の基礎（2） 第12回：結果の整理と報告書の書き方 第13回：アセスメントの実践：テストバッテリー 第14回：アセスメントの実践：事例検討（1） 第15回：アセスメントの実践：事例検討（2）
授 業 外 の 学 習 方 法
①ロールシャッハについては、テキストにそって予習・復習を十分行っておくことが望ましい。 ②テストバッテリーについて学ぶ際に、臨床心理査定演習Ⅰ（前期科目）で学んだ知能テスト・パーソナリティテストなどについての知識が必要なので、予習を十分に行っておくことが望ましい。
成 績 評 価 方 法
授業への参加状況や与えられた課題についての報告・発表などを勘案した平常点（70％）、及び各テストを実践的に試行・分析したりレポート等（30％）により評価する。
成 績 評 価 基 準
・性格検査の代表的なテストについて、その理論や適用、実施法について理解し、説明できるか。 ・臨床や実習機関において使用頻度の高いテストについては、実践的に使用ができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
・ロールシャッハ・ワークブック（第5版）J.E.エクスナー著 中村紀子、津川律子、西尾博行訳 金剛出版 2003 ・ロールシャッハの解釈 J.E.エクスナー著 中村紀子、野田昌道監訳 金剛出版 2002
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
各種の心理検査についてテスト（器具）の取り扱いには慎重にし、また被検査者のデータの管理や情報の守秘については厳重であること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理基礎実習Ⅰ			担当教員	片畑 真由美、吉水 ちひろ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-PR-2121	1 単位	1 年前期	実習	必修	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
心理臨床における実践的な能力を育成する。					

授 業 の 内 容
事例についての討議やロールプレイの演習等を通して、臨床心理実践の中核となるインテーク面接、心理臨床面接の考え方を学ぶとともに、基礎的な臨床心理実践能力を高める。合わせて、ケースカンファレンス、スーパーヴィジョンの意義や方法について学び、臨床心理専門家としての自己課題の明確化を目指す。
授 業 の 達 成 目 標
①自ら学ぼうとする主体的な態度を有している。 ②心理臨床実践のための基本的姿勢を獲得する。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：スーパーヴィジョンの基本的な構造について（M1,M2 合同） 第3回：心理臨床の学び方 第4回：セラピストの基本的態度 第5回：臨床的関わりと治療構造① 第6回：臨床的関わりと治療構造② 第7回：インテーク面接の基本的構造と応答について① 第8回：インテーク面接の基本的構造と応答について② 第9回：インテーク面接の基本的構造と応答について③ 第10回：インテーク面接の流れと見立て① 第11回：インテーク面接の流れと見立て② 第12回：インテーク面接の流れと見立て③ 第13回：プレイセラピーの基礎① 第14回：プレイセラピーの基礎② 第15回：まとめと振り返り
授 業 外 の 学 習 方 法
附属心理臨床センターでの実践実習と関連づけて体験的理解を行うこと。 適宜実習で挙げられるテーマに沿った文献を読み、各自の知識を増やすこと。
成 績 評 価 方 法
平常点（50％）、レポート（50％） （平常点は、授業への参加状況、受講態度、附属心理臨床センターでの活動状況などを総合して判断します。）
成 績 評 価 基 準
①課題への取り組みや授業での発言など、自ら学ぼうとする主体的な態度を有しているか。 ②心理臨床実践のための基本的姿勢が獲得できているか。 以上の2点を重視する。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
適宜、紹介する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
心理臨床実践に携わるものとして、必要な倫理的配慮を行い、個人情報の保護については十分な留意を行うこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理基礎実習Ⅱ			担当教員	稲木 康一郎、渡辺 克徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CP-PR-2122	1 単位	1 年後期	実習		必修
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
心理臨床における実践的な能力を育成する。					

授 業 の 内 容
ケースについての討議やロールプレイの演習等を通して、臨床心理実践の中核となるインテーク面接、心理臨床面接などについての構造についての理解を深めるとともに、基礎的な面接能力を高める。あわせて、スーパービジョンやケースカンファレンス等の意義や方法について学び、心理臨床実践者としての自己の課題の明確化を目指す。
授 業 の 達 成 目 標
心理臨床実践を行う者としての基本的姿勢を獲得すること。 心理臨床実践を行うにあたっての基本的面接技法を獲得すること。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：継続面接の基本的構造と対応について 第3回：面接初期の問題と対応について① 第4回：面接初期の問題と対応について② 第5回：面接初期の問題と対応について③ 第6回：事例検討会での発表の意義と方法について 第7回：面接中期の問題と対応について① 第8回：面接中期の問題と対応について② 第9回：面接中期の問題と対応について③ 第10回：面接後期の問題と対応について① 第11回：面接後期の問題と対応について② 第12回：面接後期の問題と対応について③ 第13回：面接の終結における対応について① 第14回：面接の終結における対応について② 第15回：基礎実習のまとめと振り返り
授 業 外 の 学 習 方 法
附属心理臨床センターでの実践実習の内容と関連付けながら理解すること。 適宜実習で挙げられるテーマに沿った文献を読み、各自の知識を増やすこと。
成 績 評 価 方 法
平常点(50%)、レポート(50%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度、附属心理臨床センターでの活動状況などを総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
心理臨床実践を行う者としての基本的姿勢が獲得できているか。 心理臨床実践を行うにあたっての基本的面接技法が獲得できているか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
適宜、紹介する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
心理臨床実践に携わるものとして、必要な倫理的配慮を行い、個人情報の保護については十分な留意を行うこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理実習			担当教員	森 俊之、水上 喜美子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-PR-2211	2 単位	2 年通年	実習	必修	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
心理臨床における実践的な能力を育成する					

授 業 の 内 容
心理臨床の実践に向けて、さまざまな臨床現場に出向き体験的に学ぶとともに、定期的な授業の中で事前指導や中間指導、事後指導を行い、報告や討論を通して互いにシェアしながら学びを深める。 実習施設としては、年間を通じて『附属心理臨床センター』において臨床実習を行うとともに、前期(夏季休暇中を含む)において外部の実習協力施設(医療および福祉の2領域)にて定められた実習を行い、実習報告書を作成し提出する。なお、外部施設での実習については、医療領域および福祉領域の双方もしくはいずれかを選択し、履修することができる。
授 業 の 達 成 目 標
・ インテーク面接に陪席して、適切な記録・報告書が書け、ケースの見立てが行えること。 ・ 来談ケースを実際に担当し、プレイセラピーやカウンセリングを中心とした継続面接を行い、適切な記録・報告書を作成するとともに、ケースカンファレンスの場で発表が行えること。(なお、年間を通して2ケース以上の担当及び発表経験を積むことが望ましい。) ・ さまざまな施設における心理職(臨床心理士等)の業務内容や役割を理解するとともに、施設の機能や特性、他職種への理解、さらに利用者(クライアント)の理解と交流など、各施設に応じた体験を積み、報告(書)ができること。
授 業 の 計 画
①心理臨床センターでの実習 年間を通して、インテーク面接の陪席およびカウンセリングやプレイセラピーを中心とした継続面接を行い、記録・報告書を作成するとともに、毎週のカンファレンスの場で交互に発表し、討議に参加する。なお、担当ケースについてはスーパーヴァイザーによる指導を定期的に受ける。 ②外部実習協力施設(医療および福祉施設)での実習 4月にガイダンスを実施し、5月～7月にかけて医療施設での実習、夏季休暇中に福祉施設での実習を行う。医療施設での実習は、原則、週4時間×9週間(36時間以上)継続的に行う。また、福祉施設での実習は集中的(概ね5日間:36時間以上)に実施する。これらの実習に当たっては、授業の中で事前指導・中間指導・事後指導を行い、実習に当たっての諸課題についての検討や実習報告を行う。また、適宜、各協力施設と連携を図りながら効果的に進めることとする。 ③上記①②の実習施設での実習のほか、授業の中で、心理臨床を進めていくうえで重要と思われる事項を取り上げ、討議を行っていく。
授 業 外 の 学 習 方 法
①心理臨床センターでの実習に当たっては、上述のクライアントの面接(陪席を含む)のほか、電話受け付けや面接室・プレイルーム等の清掃・準備など臨床機能を整える課題も課せられるので、誠実に対応すること。また、実際の面接を通して不審・不明な事柄にも多々直面すると思われるが、自ら学習するとともに、教員や臨床教育研究員やスーパーヴァイザー等の指導をうけること。 ②外部の実習協力施設での実習にあたっては、ガイダンスや事前・事後指導等で情報を共有するが、実習中に新たな事項や不明な点があれば、自ら学習するとともに指導担当者に確認するなど、積極的に実習に臨むこと。 各臨床現場で体験する様々な事柄と、これまで学んだきた専門的知識を関連づけて考察を深めることが望まれる。
成 績 評 価 方 法
①授業に関しては、参加状況、課題レポート、討議など受講態度を総合的に判断する(30%)。②心理臨床センターでの実習に関しては、陪席やケース担当へのエントリー状況、他課題への取り組み態度などを総合した評価する(40%)。③外部の実習協力施設での実習に関しては、参加状況や取り組み姿勢、報告書などによって総合的に評価する(30%)。

成 績 評 価 基 準
・ インテーク面接の記録・報告書の書き方がわかり、ケースの見立てが行えるか。 ・ ケース担当者として継続的に面接を行い、適切な記録・報告をすることができるか。 ・ さまざまな施設における心理職（臨床心理士等）の業務を理解し、説明できるか。
テキスト、参考図書
参考図書：下山晴彦（編）「臨床心理学全書 4 臨床心理実習論」 誠信書房 2006年
その他（受講上の注意）
臨床心理士を目指す者として初めての臨床実践の場であり、積極的かつ真摯な態度で臨むこと。また、それぞれの施設にふさわしい姿勢や行動と、当該指導者の指示に沿った対応が求められる。なお、当該施設や利用者に関する情報の守秘については厳守すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心身医学特論			担当教員	岸本 寛史	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-MD-2121	2 単位	1・2年前期集中	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群					
求める学習成果(教育目標)					
医学や障害等に関連する専門的知識を習得する。					

授 業 の 内 容
心理療法の基礎である、治療構造、病態水準についても事例に則して論じる。 DSMの背景と限界についても論じる。 心身症について概説し、心身症に対する心理療法的なアプローチについて、実際の事例に添いながら話す。 心理療法の過程における身体症状の意味について考える 心と体の関係について考えるため、痛みを取り上げて、身体的側面と心理的な側面の両面から論じる。 心身症の病態や心理療法の手がかりを、バウムテスト、風景構成法、夢、MSSMなどのイメージを通して、考えていく。 無意識的身体心像の概念について、実例を挙げながら論じる 神経精神分析学の方法を示す がん患者に対する心理療法的アプローチについて論じる。
授 業 の 達 成 目 標
治療構造の意義を実感する。 病態水準について理解する。木村・笠原の分類とDSMとを対比させ、それぞれの特徴と限界について理解する。また、てんかん圏・安永の中心気質についての知識を得る。 心身症の概念を把握する。痛みの心理的な側面と身体的な側面について知識をもち、両者を統合した視点を 得る。 バウムテスト、風景構成法、MSSMなどの技法を体験し、その治療促進的な要因について理解する。 上記表現療法的媒体を用いた心身症の治療についてのイメージを得る。 夢の意義について、心理学的な理論と神経科学の知見の双方から論じられるようになる。 がん患者への心理療法的なアプローチを行う上で留意すべき点について把握する。 夢を用いた心理療法がどのような形で展開していくかについての概観を得る 神経精神分析学における方法論について理解する。
授 業 の 計 画
第1回：治療構造論 第2回：心理療法における見立てと病態水準 第3回：心身症概説 第4回：痛みの身体的側面、心理的側面 第5回：バウムテスト 第6回：風景構成法 第7回：MSSM 第8回：夢の身体的基盤 第9回：夢を通じた心身症へのアプローチ 第10回：無意識的身体心像 第11回：神経精神分析学の方法 第12回：がん患者に対する心理療法的アプローチ 第13回：事例研究1 第14回：事例研究2 第15回：心身症に対する表現療法的アプローチ
授 業 外 の 学 習 方 法
参考文献に挙げたものの中で、がん患者に対する心理療法的アプローチについては特に『緩和ケアという物語』が参考になると思われる。また、神経精神分析については『ニューロサイコアナリシスへの招待』がよい入門書である。講義は事例を中心に行うので、配布資料を見直して、自身の臨床と照らし合わせながら理解を深めるようにされたい。

成 績 評 価 方 法
レポート(70%) 平常点(30%) 平常点は授業への参加状況、事例への積極的なコメントなどを総合して判断する。
成 績 評 価 基 準
具体的な事例に関して、自分なりに病態水準と見立てを述べられるか。 バウムテスト・風景構成法・MSSMの治療促進的な側面を分析できるか。 心身症の心理療法的アプローチにおいて留意すべき点が理解できているか。 夢の身体的基盤と心理療法における意義を説明できるか。 無意識的身体心像について説明できるか。 がん患者に対する心理療法的アプローチにおける留意点を説明できるか。
テキスト、参考図書
テキスト： 資料を配布する。 参考文献： 岸本寛史(2015)『緩和ケアという物語』創元社 岸本寛史(2015)『バウムテスト入門』誠信書房 カール・コッホ(1957)(岸本・中島・宮崎訳、2010)『バウムテスト第3版』誠信書房 岸本寛史編(2011)『臨床バウム』誠信書房 山中康裕・岸本寛史(2011)『コッホの『バウムテスト第3版』を読む』創元社 岸本寛史・山愛美編(2013)『臨床風景構成法』誠信書房 岸本寛史編(2015)『ニューロサイコアナリシスへの招待』誠信書房
その他(受講上の注意)
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

発達心理学特論			担当教員	竹村 明子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-ED-2111	2 単位	1・2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群					
求める学習成果(教育目標)					
発達や教育に関連する専門的知識を習得する。					

授 業 の 内 容
本講義の前半では、生涯発達に関する多くの理論的枠組みについて学び、人間の多様性や可塑性に関して理解を深める。 後半では、各発達段階の特徴と心理的問題について学び、その知見を基にディスカッションを行う。
授 業 の 達 成 目 標
・ 主要な生涯発達心理学の理論について説明することができる。 ・ 各発達段階の特徴と直面しやすい問題について理解することができる。 ・ 人間の加齢に伴う変化について、生涯発達心理学的視点を基に考察することができる。
授 業 の 計 画
第1回：人の発達とは 第2回：環境の中での人の発達 第3回：記憶と認知の生涯発達 第4回：情動の生涯発達 第5回：愛着の生涯発達 第6回：自己の生涯発達 第7回：コミュニケーションの生涯発達 第8回：対人関係の生涯発達 第9回：道徳性の生涯発達 第10回：乳児期のころ 第11回：幼児期のころ 第12回：児童期のころ 第13回：青年期のころ 第14回：成人期のころ 第15回：老年期のころ
授 業 外 の 学 習 方 法
後半の授業では、各発達段階の特徴と直面しやすい問題に関して、テキストを基に各自に発表を求める。担当した箇所の発表の準備と、関連したトピックについて調べておくこと。
成 績 評 価 方 法
発表 (50%) 授業時におけるディスカッションへの参加度 (50%) で総合評価する
成 績 評 価 基 準
・ 主要な生涯発達心理学の理論について説明することができるか。 ・ 各発達段階の特徴と直面しやすい心理的問題について説明することができるか。 ・ 人間の発達について生涯発達心理学的視点を基に考察し、自分の意見を述べることができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
テキスト：荻野美佐子（著）発達心理学特論 放送大学教育振興会ISBN978-4-595-14041-9 参考文献：渡辺弥生・榎本淳子（編）「発達と臨床の心理学」ナカニシヤ出版ISBN978-4-7795-0653-6
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
討論に参加できるように生涯発達心理学に関する基礎知識を習得しておくこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)			担当教員	後藤 智子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-ED-2121	2 単位	1・2年後期集中	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群					
求める学習成果(教育目標)					
発達や教育に関連する専門的知識を習得する。					

授 業 の 内 容
いじめ・不登校など、現代の学校教育場面における児童生徒の様々な問題について概論する。また、スクールカウンセラーとして活動するための基本的な知識と実践方法について、ロールプレイを通して学ぶ。さらに、スクールカウンセリングを巡る様々な問題について調べ、発表および討論を行うことにより、問題意識を深め、自ら主体的に学ぶ態度を養う。
授 業 の 達 成 目 標
学校現場およびスクールカウンセラーの役割について理解する。また、スクールカウンセラーとして活動するための基本的知識と実践力を身につける。
授 業 の 計 画
第1回：学校教育現場における教育臨床学および臨床心理学の役割 第2回：スクールカウンセリングの発展と現状 第3回：児童生徒のこころとからだをめぐる諸問題（1）不登校 第4回：児童生徒のこころとからだをめぐる諸問題（2）いじめ 第5回：児童生徒のこころとからだをめぐる諸問題（3）発達障害 第6回：スクールカウンセリングの実際（1）法と倫理 第7回：スクールカウンセリングの実際（2）緊急支援 第8回：スクールカウンセリングの実際（3）ロールプレイ（枠組み作り） 第9回：スクールカウンセリングの実際（4）ロールプレイ（スタンスとアセスメント） 第10回：スクールカウンセリングの実際（5）ロールプレイ（学校内外の連携） 第11回：スクールカウンセリングの実際（6）ストレスマネジメント 第12回：スクールカウンセリングの実際（7）ワークショップ 第13回：スクールカウンセリングの課題（1）発表と質疑応答 第14回：スクールカウンセリングの課題（2）発表と質疑応答 第15回：スクールカウンセリングの課題（3）発表と質疑応答
授 業 外 の 学 習 方 法
事前学習として、日頃から学校教育や生徒指導・教育相談、スクールカウンセリングに関する報道等について関心を持ち、問題意識をもって講義に臨んでください。また、事後学習として、講義で扱ったテーマについて、文献に当たって知識を拡充し、研究発表に備えてください。
成 績 評 価 方 法
発表と課題レポート（50%） 授業中のロールプレイ・演習と小レポート（20%） 平常点（30%） ・平常点は、授業への参加状況、受講態度、コメント用紙の提出状況等を総合して判断します。
成 績 評 価 基 準
・将来のスクールカウンセラーとして、基本的な知識と技法を備えているか。 ・将来の心理臨床家としての自覚と責任感に裏打ちされた主体的態度を身につけているか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
卯月研次・後藤智子著『心とふれあう教育相談』北樹出版（2015）、他、適宜、資料を配布します。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
質問や疑問がありましたら、t-goto@baika.ac.jpまで、ご連絡ください。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会病理学特論			担当教員	三脇 康生、松嶋 健	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-SC-2111	2 単位	1・2年前期集中	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群					
求める学習成果(教育目標)					
社会や集団、組織の中での心理を理解するための知識を習得する。					

授 業 の 内 容
日本社会の大きな変質を説明し、そこから生じる様々な孤立（が原因で生じる犯罪や病）の問題について、対処の方法を海外の情報も得ながら考える。
授 業 の 達 成 目 標
日本社会の特徴を理解し公認心理師・臨床心理士として何が出来るのか、その社会的役割について考察し実践できる能力を身につける。
授 業 の 計 画
第1回：現代社会の特徴と病理概観 1 第2回：現代社会の特徴と病理概観 2 第3回：現代社会の特徴と病理概観 3 第4回：現代社会の特徴と病理概観 4 第5回：現代社会の特徴と病理概観 5 第6回：現代社会の特徴と病理概観 6 第7回：現代社会の特徴と病理概観 7 第8回：新型鬱特論 第9回：医療観察法 第10回：社会的ひきこもりとニート 第11回：現代社会と暴力、ハラスメント社会 1 第12回：現代社会と暴力、ハラスメント社会 2 第13回：家族機能の変質と病理 第14回：東北大震災 第15回：理想自我と自我理想
授 業 外 の 学 習 方 法
新聞記事、ネット情報で社会をにぎわすメンタルヘルス問題を調査する
成 績 評 価 方 法
平常点50パーセント レポート50パーセント (平常点は、授業への参加状況・受講態度・質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
公認心理師・臨床心理士として社会にかかわる方法を学ぶが、その方法を身に付けたかどうかが基準となる。
テキスト、参考図書
①三脇康生他「学校教育を変える制度論」万葉舎②三脇康生他編「医療環境を変える一制度を使った精神療法の実践と思想」(京都大学学術出版会)※②のみ下記ページにアクセスをして、「買い物かごに入れる」→「配送先：JAPAN」→「購入手続きに進む」の順番で手続きを行い、申し込み画面にて「氏名」、「住所」、「クーポンコード」等を入力すると、書籍代金が2割引されます。 http://www.kyoto-up.or.jp/book.php?isbn=9784814000296 クーポンコード：T100765 (有効期限2016/5/31)
その他(受講上の注意)
私語は厳禁
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に 関する理論と実践)			担当教員	水上 喜美子
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CP-SC-2141	2 単位	1 年後期	講義	選択
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群				
求める学習成果(教育目標)				
社会や集団、組織の中での心理を理解するための知識を習得する。				

授 業 の 内 容	
私たちが初めて出会い、もっとも密接に関わる社会集団は「家族」であろう。親子関係や夫婦間の問題、高齢者の介護問題、教育や学校或いは社会との関係など、家族が抱える多くの問題や課題を取り上げ、家族システム論の視点から整理し、これらの問題に対する家族療法や家族心理教育などの援助方法の理論と技法を解説する。	
授 業 の 達 成 目 標	
現代社会における家族関係の心理的な仕組みや家族が抱える様々な心理的問題について理解を深め、家族への心理的援助の専門的な知識を身に付ける。これらの知識を実際の問題に適用し、家族への具体的な心理的援助が行えるようになることを目標とする。	
授 業 の 計 画	
第1回：現代社会の中の家族 第2回：家族心理学の基礎理論 第3回：家族心理臨床とは 第4回：家族療法の理論① 第5回：家族療法の理論② 第6回：家族・夫婦関係の心理査定① 第7回：家族・夫婦関係の心理査定② 第8回：家族・夫婦療法の技法① 第9回：家族・夫婦療法の技法② 第10回：家族・夫婦療法の技法③ 第11回：家族臨床ケース検討① 第12回：家族臨床ケース検討② 第13回：地域社会における家族支援① 第14回：地域社会における家族支援② 第15回：まとめ	
授 業 外 の 学 習 方 法	
発達心理学、臨床心理学、社会心理学の基礎理論を前提として授業を行うので、については、本講義の受講前に予習しておくことが望ましい。必要に応じて、講義の理解をまとめる小レポートを課す。	
成 績 評 価 方 法	
レポート (50%) と授業参加 (出席状況、受講態度、ワークや発言への参加の積極性等を総合して判断) (50%)	
成 績 評 価 基 準	
・現代社会における家族の問題について、家族心理学的立場から考えることができるか。 ・家族に対する見立てや介入を行うための力が身についたか。 ・家族療法および夫婦療法の理論や技法を説明できるか。	
テキスト、参考図書	
テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。 参考図書 日本家族研究・家族療法学会編 (2013) . 家族療法テキストブック 金剛出版	
その他(受講上の注意)	

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)			担当教員	三脇 康生	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-MD-2111	2 単位	1・2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群					
求める学習成果(教育目標)					
医学や障害等に関連する専門的知識を習得する。					

授 業 の 内 容
精神医学の歴史、病気の盛衰、現代のメンタルヘルス問題について深く理解する
授 業 の 達 成 目 標
公認心理師・臨床心理士として医療分野で働ける力を身につける、カウンセリングのときに知っておくべき病気の特徴を理解する
授 業 の 計 画
第1回：精神医学のシステム構築の歴史と現状の説明 第2回：精神医学の歴史1 第3回：精神医学の歴史2 第4回：クレペリン 第5回：ヤスパース 第6回：統合失調症とは1 第7回：統合失調症とは2 第8回：気分障害 第9回：現代型鬱 第10回：フロイト 第11回：ジャネ 第12回：分析に終わりはあるか 第13回：ラカン 第14回：反精神医学 第15回：文化精神医学
授 業 外 の 学 習 方 法
取り上げる精神科医、精神分析家、病気についての本を読んでおく
成 績 評 価 方 法
平常点50% レポート50% (平常点は、授業への参加状況・受講態度・質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
毎回、松本雅彦先生の本をまず購読するため、その内容をレジュメすること、そのレジュメと最終期末レポートを書く。その際に、精神医学のあるべき姿を思い浮かべられるかどうかを見る。
テキスト、参考図書
①松本雅彦「精神病理学とは何だろうか」星和書店②三脇康生他編「医療環境を変える－制度を使った精神療法の実践と思想」(京都大学学術出版会)※②のみ下記ページにアクセスをして、「買い物かごに入れる」→「配送先：JAPAN」→「購入手続きに進む」の順番で手続きを行い、申し込み画面にて「氏名」、「住所」、「クーポンコード」等を入力すると、書籍代金が2割引されます。 http://www.kyoto-up.or.jp/book.php?isbn=9784814000296 クーポンコード：T100765(有効期限2016/5/31)
その他(受講上の注意)
私語は厳禁
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)			担当教員	水田 敏郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-MD-2141	2 単位	1・2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群					
求める学習成果(教育目標)					
医学や障害等に関連する専門的知識を習得する。					

授 業 の 内 容
発達障害(主として学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム)に関する専門書「the learning brain」のなかから、脳の発育・発達、数学・読み書き・学習全般に関連する脳機能と障害、社会的発達・情動的発達の障害に関する章を中心に解説をする。
授 業 の 達 成 目 標
脳の発達過程について理解する。発達障害の障害メカニズムと臨床像について理解する。発達障害の心理的特徴とそれをふまえた支援方法について考察する。
授 業 の 計 画
第1回：ガイダンス 第2回：発達障害の概要と定義 第3回：The Developing Brain①：脳の発達① 第4回：The Developing Brain②：脳の発達② 第5回：The Mathematical Brain①：数学のための脳機能① 第6回：The Mathematical Brain②：数学のための脳機能② 第7回：The Literate Brain①：読み書きのための脳機能① 第8回：The Literate Brain②：読み書きのための脳機能② 第9回：Learning to Read and its Difficulties①：読みの学習とその障害① 第10回：Learning to Read and its Difficulties②：読みの学習とその障害② 第11回：Disorders of Social-emotional Development：社会的発達・情動的発達の障害① 第12回：Disorders of Social-emotional Development：社会的発達・情動的発達の障害② 第13回：Disorders of Social-emotional Development：社会的発達・情動的発達の障害③ 第14回：障害に応じた支援 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の講義を受講した後、教科書の当該部分をよく読んで復習してください。また、予習にあたっては次の授業の内容部分をよく見て、問題意識をもって授業に臨んでください。
成 績 評 価 方 法
レポート(90%) 平常点(10%) (平常点は、授業への参加状況、参加態度などを総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
脳の発達過程について理解できたか。発達障害の障害メカニズムと臨床像について理解できたか。発達障害の心理的特徴とそれをふまえた支援方法について考察することができたか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
参考図書：『the learning brain - lesson for education』 Sarah-Jayne Blakemore and Uta Frith, Blackwell Publishing
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
「the learning brain」は英文です。授業参加に際して、毎回予習として日本語全訳と要約を作成し、提出してもらいます。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)			担当教員	山本 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CP-SC-2131	2 単位	1・2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群					
求める学習成果(教育目標)					
社会や集団、組織の中での心理を理解するための知識を習得する。					

授 業 の 内 容
人間は様々な社会的状況の中で生き、他者や社会、集団や組織と相互に影響し合っている。複雑化する社会の中で目の前の問題をどう認知し、働きかけていくべきかは重要な問題となる。対人認知、意思決定、合理的判断と不合理、直感と論理、シュールリスティクスとバイアス、社会的ジレンマなど人間の心理的、行動的特性を理解しながら、日本社会における組織の在り方について理解を深める。また、実証的研究方法を考察するとともに、課題解決するためにはどうすべきか議論する。
授 業 の 達 成 目 標
・人間の行動特性について学ぶとともに、日本社会における産業、組織の在り方について概観する。 ・組織の中でおこる問題と個人に与える心理的影響について学ぶ。 ・論文の読解、討論、批判的視点について学ぶ。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：組織とは何か 第3回：人財育成について 第4回：モチベーションについて（1） 第5回：モチベーションについて（2） 第6回：リーダーシップについて（1） 第7回：リーダーシップについて（2） 第8回：意思決定について（1） 第9回：意思決定について（2） 第10回：事例発表とディスカッション、コメント 第11回：事例発表とディスカッション、コメント 第12回：事例発表とディスカッション、コメント 第13回：事例発表とディスカッション、コメント 第14回：事例発表とディスカッション、コメント 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
各回に関連する心理学的事象について講義前・講義後において理解を深めるよう努力すること。その際、関連論文・参考文献等講義内にて指示する。 予習として次回授業についてまとめ、発言できるようにする。
成 績 評 価 方 法
レポート（50%）、発表の内容やディスカッションへの参加状況（50%）
成 績 評 価 基 準
・産業組織に対する理解を深めることができたか。 ・現実社会での個人の心理、行動を理解し、研究と結び付けて考えることができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
講義の中で指示する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
担当箇所について発表する際にはレジメにまとめ、人数分用意しておくこと。1週間前にはレジメを提出しておくこと。発表者の意見に耳を傾け、積極的に議論に参加すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理教育学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)			担当教員	杉島 一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2141	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容
心理教育とは、心の健康教育すなわち自身のメンタルヘルスについて理解と予防を促したり、また障害や精神疾患を持つ人の家族や周囲の人々あるいは社会に対し障害や精神疾患等についての理解を促すものである。本講義においては、メンタルヘルスの維持や発達障害や無気力に対する対応を中心に、心の健康教育の理論と実践を講義する。
授 業 の 達 成 目 標
・心の健康教育の理論を理解する。 ・心の健康教育を実践する能力を身につける。
授 業 の 計 画
第1回：心の健康教育の意義 第2回：現代社会における心の健康における問題 第3回：社会における発達障害者が抱える問題 第4回：心の健康教育の理論Ⅰ 第5回：心の健康教育の理論Ⅱ 第6回：心の健康教育の理論Ⅲ 第7回：心の健康教育の実践例Ⅰ 第8回：心の健康教育の実践例Ⅱ 第9回：発達障害に関する心理教育Ⅰ 第10回：発達障害に関する心理教育Ⅱ 第11回：社会に対する発達障害の理解促進の実践例 第12回：無気力（学習性無力感） 第13回：教育場面における心理教育の実践 第14回：職場における心理教育の実践 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
心理教育の理論に関して、教員が指示する論文を授業までに読んでおく。 心理教育の実践に関して、取り上げた理論の実践例を各自探して、授業において発表を行う。
成 績 評 価 方 法
授業内での発表（20％）討議の姿勢（20％）および項目ごとに課するレポート課題（60％）
成 績 評 価 基 準
・心の健康教育の理論を理解し説明できるか。 ・心の健康教育を実践する能力を身につけたか。
テキスト、参考図書
テキストは使用せず、その都度資料等を配布する。次回講義に必要な論文は各回ごとに指示する。 参考図書は適宜紹介する。
その他(受講上の注意)
各自に適宜発表を課するため、事前準備を怠らないようにすること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

グループアプローチ特論			担当教員	鎌田 道彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2221	2 単位	1・2年前期集中	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 応用科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容	
グループアプローチの理論および技法についての学習を行う。 グループアプローチの体験学習を行う。	
授 業 の 達 成 目 標	
グループアプローチについて理論的に理解すること グループアプローチについて体験的に理解すること	
授 業 の 計 画	
第1回：オリエンテーション 第2回：グループアプローチとは 第3回：グループアプローチの技法① 第4回：グループアプローチの技法② 第5回：グループアプローチの技法③ 第6回：グループ体験① 第7回：グループ体験② 第8回：グループ体験③ 第9回：グループ体験④ 第10回：グループ体験⑤ 第11回：グループ体験⑥ 第12回：グループ体験⑦ 第13回：グループ体験⑧ 第14回：グループ体験⑨ 第15回：まとめ	
授 業 外 の 学 習 方 法	
事前にグループ体験で、どのような体験をしたいかなどの目的を考えて参加すること 提示した文献を受講者で分担し、まとめること	
成 績 評 価 方 法	
レポート50%、平常点50% (平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。)	
成 績 評 価 基 準	
グループアプローチについて理論的に理解できているかどうか グループアプローチについて体験的に理解できているかどうか	
テ キ ス ト 、 参 考 図 書	
参考図書： 村山 正治（編著）「自分らしさを認めるPCAグループ入門」「新しい事例検討法PCAGIP入門」 野島 一彦（編著）「グループアプローチ（現代のエスプリ）」	
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)	
全期間参加すること。なお、グループ体験は合宿形式で行う。	
オ フ ィ ス ア ワ ー	
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	

心理療法特論			担当教員	千野 美和子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2211	2 単位	1・2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 応用科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容
これから実際に面接を担当するにあたって、個人心理療法の原則となる考え方や基本姿勢を学ぶ。 まず、心理療法の歴史の5つの流れを概観する。そして心理療法の目的、心理療法における枠組み、初回面接、見立てなど、心理療法の基本的な考えと姿勢、次に心理療法の一つである遊戯療法、それに伴う母親面接、イメージを扱う箱庭療法、心理テストとの関わり、最後に心理療法の訓練であるスーパービジョン、事例研究について取り上げる。 授業方法は、受講生の発表と話し合いを中心とする。後半の何回かは、基本姿勢を体験的に理解するために実習を行う。
授 業 の 達 成 目 標
心理療法の基本的な考えや態度を理解すること。心理療法についての自分の考えを持つことができること。 面接を担当する心構えを身につけること。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション（心理療法の歴史の5つの流れを概観する） 第2回：心理療法の目指すもの 第3回：初めての面接 第4回：初回面接 第5回：見立て 第6回：心理テストとの関わり 第7回：心理療法における枠組み 第8回：傾聴と共感 第9回：関係について 第10回：箱庭療法 第11回：スーパーヴィジョンと事例研究について 第12回：遊戯療法 第13回：親面接 第14回：実習その1 第15回：実習その2
授 業 外 の 学 習 方 法
授業前にすること：前もって、毎回の授業のテーマに関わる文献を提示するので、授業までにその文献を読んで、自分の意見と疑問点をレポートにまとめ、授業時に発表すること。 授業後にすること：授業中の発見、疑問、授業後のまとめをレポートにすること。 実習はカウンセリングのロールプレイを授業外に行い、その逐語録を授業時に検討する。
成 績 評 価 方 法
毎回の授業中の発表と意見交換（60％）授業後のレポート（40％）
成 績 評 価 基 準
心理療法の基本的な考え方や基本的姿勢を理解して自分の考えを述べることができるか。
テキスト、参考図書
使用する文献については毎回紹介する。
その他(受講上の注意)
文献を読んで出てきた素朴な疑問や問題を出し合い、話し合いを通して、理解を深めていきたい。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

老年心理学特論			担当教員	水上 喜美子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-MD-2211	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 応用科目群					
求める学習成果(教育目標)					
医学や障害等に関連する専門的知識を習得する。					

授 業 の 内 容
超高齢社会になり、臨床の場で、高齢の患者やクライアントまたその家族に出会う機会が増えている。本講では、老年心理学の基礎的な知識を習得するだけでなく、高齢者に対する心理療法や心理アセスメントについて実習形式で学び、高齢者理解につなげていくことを目的とする。また、高齢者の語りや事例を通して老年期の心理的課題について学び、専門家として高齢者とどのように関わり、向き合うことができるのかについて考えていく。
授 業 の 達 成 目 標
・生涯発達における老年期の位置づけと心理的課題を理解する。 ・高齢者やその家族に対する見立てや介入を行うための力を身につける。 ・高齢者の暮らしや家族の状態や状況を捉えるための知識や技法を学ぶ。
授 業 の 計 画
第1回：生涯発達における老年期 第2回：老年期における身体的変化（神経・感覚器） 第3回：老年期における社会的変化（人間関係） 第4回：老年期における心理的变化（記憶・知能・性格） 第5回：老年期の心理臨床的問題①孤独・孤立 第6回：老年期の心理臨床的問題②認知症1 第7回：老年期の心理臨床的問題③認知症2 第8回：老年期の心理臨床的問題④うつ・自殺 第9回：高齢者に対する心理アセスメント①認知機能 第10回：高齢者に対する心理アセスメント②人格 第11回：高齢者に対する心理的援助①心理療法1 第12回：高齢者に対する心理的援助②心理療法2 第13回：高齢者に対する心理的援助③家族支援 第14回：高齢者に対する心理的援助④ターミナルケア 第15回：総合的討論
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、各回に関連する本や論文などを読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。
成 績 評 価 方 法
レポート（50%）と授業参加（出席状況、受講態度、ワークや発言への参加の積極性等を総合して判断）（50%）
成 績 評 価 基 準
・生涯発達における老年期の位置づけと心理的課題が理解できたか。 ・高齢者やその家族に対する見立てや介入を行うための力が身についたか。 ・高齢者の暮らしや家族の状態や状況を捉えるための知識や技法を説明できるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
テキストは特に指定しない。必要に応じて参考図書を紹介する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

産業心理調査解析			担当教員	杉島 一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-RM-2221	2 単位	2 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 応用科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学に関する研究能力の基礎を培う。					

授 業 の 内 容
産業組織の中で働く人々の心理・行動を、調査・解析するための技法の修得を目的とする。そのために、質問紙の作成から実施方法までの質問紙調査法の技法および収集したデータの解析法、特に因子分析、重回帰分析等の多変量解析の理解を深める。 その後、所定のテーマに沿った調査を実際に行い分析することで、理解をさらに深める。
授 業 の 達 成 目 標
・ 質問紙の作成ができること。 ・ 質問紙調査法の技法およびデータ解析ができること。 ・ 因子分析や重回帰分析等の多変量解析が理解でき、活用ができること。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：質問紙作成の原理 第3回：多変量解析の理解（重回帰分析1） 第4回：多変量解析の理解（重回帰分析2） 第5回：多変量解析の理解（因子分析1） 第6回：多変量解析の理解（因子分析2） 第7回：多変量解析の理解（重回帰分析とパス解析） 第8回：多変量解析の理解（クラスター分析、MDS、共分散構造分析） 第9回：質問紙調査法の理解 第10回：質問紙の作成 第11回：質問紙調査の実施と解析 第12回：質問紙調査の解析 第13回：質問紙調査の解析 第14回：調査報告① 第15回：調査報告②
授 業 外 の 学 習 方 法
適宜多変量解析を用いた論文を提示するので、授業までに読んでおくこと。授業で行った内容の理解のため十分な復習をおこなうこと。また、授業では解析の方針や解析結果について討論をおこなうので、質問紙調査の実施やデータ解析は、授業時間外に行うこと。
成 績 評 価 方 法
各自が実施した質問紙調査についての結果報告とレポートの評価（80%）および受講態度（20%）により評価。
成 績 評 価 基 準
・ 質問紙の作成ができるか。 ・ 質問紙調査を問題なく実施できるか。 ・ 因子分析や重回帰分析等の多変量解析が理解でき、活用ができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
テキスト：未定 参考図書：数学ライブラリー『多変量解析入門』（森北出版）

その他(受講上の注意)

数学の基礎知識(数列、行列、ベクトル、微分等)と、統計学の基礎知識(記述統計、t検定や分散分析等の推測統計)が必要である。行列演算等については授業でも説明するが、基本的なところについては自分で勉強しておくこと。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)			担当教員	森 俊之、三脇 康生、水上喜美子、 片畑真由美、吉水ちひろ、渡辺 克徳、 稲木康一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CP-PR-2911	10単位	1 ～ 2 年通年	実習		選択
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 応用科目群					
求める学習成果(教育目標)					
心理臨床における実践的な能力を育成する。					

授 業 の 内 容	
実際の心理臨床の現場に実習生として参画し、直接、利用者の方との関わりも体験しながら、心理臨床の実践を学ぶ。具体的には、本学の附属心理臨床センターにおける実習と、大学外の実習協力施設（医療領域、福祉領域、教育領域の3施設）における実習を行う。	
授 業 の 達 成 目 標	
・心理支援を要する者等とコミュニケーションをとり、心理検査や心理面接、地域支援等を行うことができる ・心理支援を要する者等を理解し、ニーズを把握し、支援計画を作成することができる ・心理支援を要する者へのチームアプローチができる ・多職種連携及び地域連携をすることができる ・公認心理師・臨床心理士としての職業倫理及び公認心理師としての法的義務を理解する	

授 業 の 計 画

1 年次および 2 年次の 2 年間を通して、下記のとおり、本学の附属心理臨床センターにおける実習と、大学外の実習協力施設（医療領域、福祉領域、教育領域の 3 施設）における実習を行う。大学外の実習については、現地での実習に加えて、大学内において事前・中間・事後指導も行う。

●附属心理臨床センターにおける実習（300時間）

1 年次、2 年次を通して、下記の内容を行う。

○インテーク面接陪席

1 年次前期の中頃より随時、インテーク面接への陪席を体験する。インテーカーの指導のもとインテーク報告書を作成し、インテークカンファレンスにて発表する。

○ケース担当

1 年次後期より、特定のクライアントのケース担当者となり、継続的にカウンセリングや遊戯療法等を担当する。担当ケースについて、ケース報告をまとめてケースカンファレンスにおいて発表する。

○ケースカンファレンスへの参加

1 年次及び 2 年次を通して、定期的に関われるケースカンファレンスに参加する。自分の担当ケースについてケース報告をするとともに、他者の報告ケースに対しても討論に参加し、ケースの理解を深める。

○受付、備品管理等のセンター業務担当

受付や備品管理等のセンター業務を当番制により担当する。窓口や電話を通してクライアント等と関わることを通して、基礎的なコミュニケーション力を高める。各相談室の備品管理や清掃などを通して、相談施設としての環境に対する理解を深める。

○地域向け公開講座等の運営

地域向けに開催される公開講座の事前準備や当日運営に関わることで、地域支援のあり方に対する理解を深める。

●医療領域に関する学外施設での実習（事前事後指導を含め50時間）

原則として 2 年次の 5～7 月の時期に、実習協力施設である個々の病院・診療所の実状に応じて、下記の内容を行う。

- ・病院組織の理解
- ・医師の診察への陪席
- ・心理検査、各種心理療法、デイケア等への陪席
- ・入院患者等との関わり
- ・ケースカンファレンス等への参加 など

●福祉領域に関する学外施設での実習（事前事後指導を含め50時間）

原則として 2 年次の 8～9 月の時期に、実習協力施設である個々の児童相談所の実状に応じて、下記の内容を行う。

- ・児童相談所組織の理解
- ・心理検査やインテーク面接等への陪席
- ・判定票等の作成指導
- ・一時保護所入所児童等との関わり
- ・処遇会議等への陪席 など

●教育領域に関する学外施設での実習（事前事後指導を含め50時間）

原則として 2 年次の 10～11 月の時期に、実習協力施設である個々の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の実状に応じて、下記の内容を行う。

- ・学校組織の理解
- ・スクールカウンセラー業務の陪席
- ・相談室・保健室登校の児童生徒との関わり
- ・授業や部活動場面における児童生徒の観察
- ・職員会議等への陪席 など

授 業 外 の 学 習 方 法

それぞれの心理臨床現場で体験する様々な事柄と、これまで学んだきた専門的知識を関連づけて考察を深めること。

成 績 評 価 方 法

附属心理臨床センターでの実習に関しては、陪席やケース担当へのエントリー状況、カンファレンス等での発言状況などを総合して評価する（40%）。外部の実習協力施設での実習に関しては、参加状況や取り組み姿勢、報告書などによって総合的に評価する（各20%）。

成 績 評 価 基 準

- ・心理支援を要する者等とコミュニケーションをとり、心理検査や心理面接、地域支援等を行うことができるか
- ・心理支援を要する者等を理解し、ニーズを把握し、支援計画を作成することができるか
- ・心理支援を要する者へのチームアプローチについて実践できるか
- ・多職種連携及び地域連携について実践できるか
- ・公認心理師・臨床心理士としての職業倫理及び公認心理師としての法的義務を説明できるか

テキスト、参考図書

参考図書：下山晴彦（編）「臨床心理学全書 4 臨床心理実習論」 誠信書房 2006年
 そのほか、随時、紹介する。

その他（受講上の注意）

実際の心理臨床実践の場を体験することになるため、それぞれの施設の指導者の指示に従い、それぞれの施設にふさわしい姿勢や行動を心がけること。とくに、当該施設や利用者に関する情報の守秘については厳守すること。一つ一つの実習の体験が、貴重な学びの場であることを自覚し、積極的かつ真摯な態度で臨むこと。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理実習Ⅱ (スーパービジョンプログラムを含む)			担当教員	森 俊之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-PR-2921	1 単位	1 ～ 2 年通年	実習	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 応用科目群					
求める学習成果(教育目標)					
心理臨床における実践的な能力を育成する。					

授 業 の 内 容
スーパービジョンプログラム規程に基づき、1 年間に15時間（2 年間に30時間）以上、大学が委嘱した学外のスーパーバイザーと一対一で面談し、自己分析や自身の担当するケースへの理解を深める。また、学会や研修会等に参加し、授業以外の場での学びの場を体験する。
授 業 の 達 成 目 標
・スーパービジョンを定期的に受ける態度や習慣を身に付ける。 ・スーパービジョンを受けながら自身や自身のケースについて振り返りができる。 ・学会や研究会等の場で、ケースや研究について討論する態度や習慣を身に付ける。
授 業 の 計 画
次の2つの実践活動を体験する。 ●スーパービジョンプログラム 学外のスーパーバイザーのもとで、1 年間で15時間、2 年間で30時間のスーパービジョンを受ける。 具体的なスーパービジョンの日時はスーパーバイザーと相談して、個々に決める。 スーパーバイザーは、年度の初めに決定する。 スーパービジョンを実施した後には定期的に実施記録を提出するとともに、年度末には1 年間のスーパービジョンを振り返ったレポートを作成する。 ●学会・研究会等参加 指導教員と相談しながら、学会等に入会し、研究会や研修会などに参加する。 2 年間で15時間以上の活動に従事する。 研究会等に参加後は、その都度、どのような活動に参加し、どのような学びがあったかに関するレポートを作成する。
授 業 外 の 学 習 方 法
臨床心理基礎実習ⅠⅡ、臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）、臨床心理研究演習、その他の講義科目での学びをもとに活動を行うことになるので、それぞれの授業をしっかりと修める。
成 績 評 価 方 法
スーパービジョン実施記録（30%）、1 年間のスーパービジョン体験を振り返るレポート（30%）、学会等に参加した後で提出するレポート（40%）をもとに総合的に評価する。
成 績 評 価 基 準
・スーパービジョンを定期的に受けることができたか。 ・スーパービジョンを受けながら自身や自身のケースについて振り返りができたか。 ・学会や研究会等の場に、参加して議論ができたか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
参考図書：下山晴彦（編）「臨床心理学全書 4 臨床心理実習論」 誠信書房 2006年 そのほか、随時、紹介する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
学外の人と交流する活動となるため、一般的な社会常識等、他者との関わり方に注意すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理研究演習			担当教員	片畑 真由美、竹村 明子、森 俊之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-RM-2211	4 単位	2 年通年	演習	必修	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 研究指導科目					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学に関する研究能力の基礎を培う					

授 業 の 内 容
修士論文の作成にあたり、研究指導教員との議論等を通して、自分の研究課題を設定し、その課題を解決するための方法論等を検討する。
授 業 の 達 成 目 標
・問題意識をもち自らの研究課題を設定できる。 ・自分の研究課題に必要な研究方法を吟味し選択できる。 ・研究者として自分の考えを論理的に表現（論文執筆や口頭発表）できる。
授 業 の 計 画
第1回～第30回：担当教員の進め方にしたがって、文献精読や議論等を進める。
授 業 外 の 学 習 方 法
担当教員の指導のもと、各自で自分の研究課題遂行に必要な活動（文献精読、調査、観察、実験など）に取り組む。
成 績 評 価 方 法
レポートや発表（50％） 平常点（50％） レポートや発表の形式は担当教員により異なる。また、平常点は、授業への参加状況や受講態度等を総合して判断する。
成 績 評 価 基 準
・問題意識から研究課題を設定できるか。 ・研究課題に必要な研究方法を吟味し選択できるか。 ・研究者として自分の考えを論理的に表現できるか。
テキスト、参考図書
担当教員の指示にしたがうこと。
その他(受講上の注意)
修士論文の作成にあたっては、自らの研究として積極的に取り組むとともに、指導教員と十分に議論しながら計画的に進めること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。